

令和4年度入試の出題意図・ねらい

国際関係コース 学校推薦型選抜

全体
海外での現地調査・フィールドワークの経験を綴った文章を読ませることで、高等学校教育課程の基礎学力と国際関係コースでの専門性を修得する上で必要となる問題関心を確認し、総合的な学習の時間における探求的な学習の成果と関連づけた立論、主体的な探究心、協働性・多様性への理解、表現力・思考力を総合的に評価することをねらう出題とした。
設問1
海外でのフィールドワークにはつきもののハプニングや雑談の意味を文章にそくして理解し的確に記述できるかを問うた。
国際関係コースのアドミッション・ポリシーに基づいた評価の観点
<ul style="list-style-type: none">《求める人材》1(2)の「日本語の文章の読解力と、口頭及び文章で適切な日本語を論理的に運用する力」を見る。《高等学校段階までの学習で身につけてほしいこと》2の「まとまった分量のある日本語の文章を筋道立てて読み解く力と、口頭及び文章で適切な日本語を論理的に運用する力」を見る。《選抜の基本方針》における「論理的な思考力・表現力」を見る。
設問2
調査のプロセスにおいて、調査者が現地の人間関係に与える影響と、その影響を最小限に抑える必要がある理由について、文章にそくして理解し的確に記述できるかを問うた。
国際関係コースのアドミッション・ポリシーに基づいた評価の観点
<ul style="list-style-type: none">《求める人材》1(2)の「日本語の文章の読解力と、口頭及び文章で適切な日本語を論理的に運用する力」を見る。《高等学校段階までの学習で身につけてほしいこと》2の「まとまった分量のある日本語の文章を筋道立てて読み解く力と、口頭及び文章で適切な日本語を論理的に運用する力」を見る。《選抜の基本方針》における「論理的な思考力・表現力」を見る。
設問3
調査・研究が調査対象の現地の人々にとって「役に立つ」ということについて、著者の考えをまとめたうえで、受験生の高等学校での「総合的な学習の時間」での探究学習の経験を踏まえて立論し、自己の見解を根拠立てて議論展開できるかを問うた。評価に際しては、(1) 自己の見解の明確さ、(2) 根拠の明示、(3) 論理的な思考・表現、(4) 結論の妥当性、(5) 記述全体の構成と整合性、(6) 字数の適切な分量、を評価した。
国際関係コースのアドミッション・ポリシーに基づいた評価の観点
<ul style="list-style-type: none">《求める人材》3(1)の「北東アジアをはじめとするアジア地域や国際社会、またグローバル化した国内社会が抱える課題に強い関心を持ち、背後にある歴史や地域的特性について主体

的に探究しようとする姿勢」を見る。

- 《高等学校段階までの学習で身につけてほしいこと》5の「自らの関心に従って、高等学校での学習に関連する事柄について、旺盛な知識欲と好奇心を持って調べ抜く姿勢」を見る。
- 《選抜の基本方針》における「主体的な探究心」、「協働性・多様性への理解」、「論理的な思考力・表現力」を見る。